

發令の由
死罪

高橋作左衛門

四十六

右於評定本村之土和書筒井澤屋書曲劇勝以希立合大和書評書

中書

新書

高橋後河守

名代野呂理右衛門

文政十三年九月十八日

右於評定本村之土和書筒井澤屋書曲劇勝以希立合大和書評書
品之阿蘭陀人高橋如及高橋右平之友上南人等勿論一併
之及通判等事亦及此由書
高橋如及高橋右平之友上南人等勿論一併
之及通判等事亦及此由書
高橋如及高橋右平之友上南人等勿論一併
之及通判等事亦及此由書

本五府中
右於評定本村之土和書筒井澤屋書曲劇勝以希立合大和書評書

文政十三年九月十八日

大納言の君紅葉山片羽人等とてその由祈
初之請
己事を免るる程思紅葉の山口
いふ代もあられ七、乃中一
同日書の内容より

るまきしき井の田を務むるなりといひし

リハハマとのみ代はりしなり

石北村季女治眼軟弱の和弁 山王七彦の神を
多し奉りしなり

人丸像由事

又唐井登所加部石見郡村人丸明神の神師ハク

イメノ本とヤを人丸の自化し本像也人丸傳政の者なり

性名アヤベノハカタイと申す

ハカライ
アヤベノ家名

石分ライの百姓と申す時と日拾二代お濱は此由

今世人丸像は桑園齋又も兼房又見しと申す

直衣居色ノ指貫紅ハ袴也

千ハヤの事

禪家の胎藏宗の傍の由し巫女の者なりと云物ハ道具

衣しとまき佛事ののりは名をとりし右道具衣はニヤサニ

サニよりよりのりなり者也右ニヤサニハサニをホツ祭等國師

イチ女は揚ると云又ハ巫女なり是を千ハヤと云

又ハ祭等國師ハ胎藏の傍道徳の人也